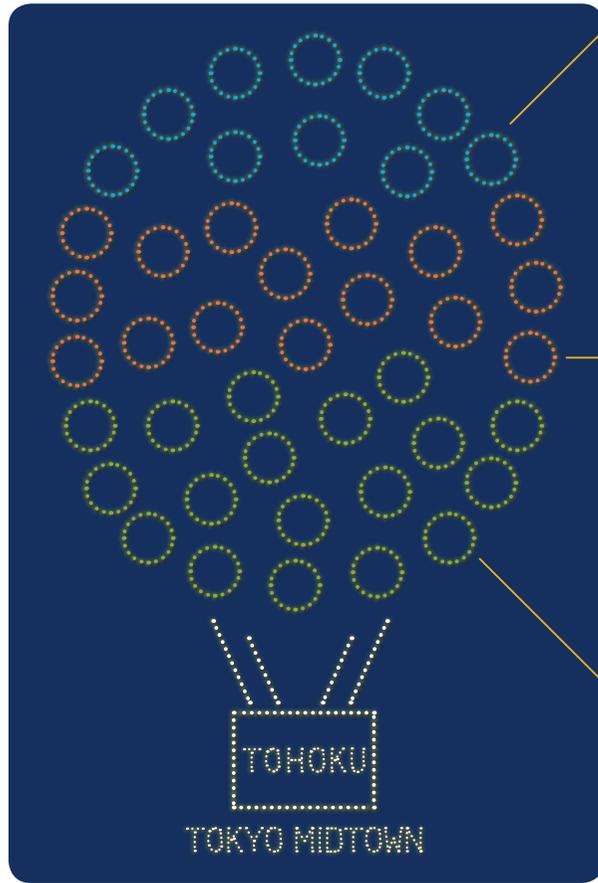
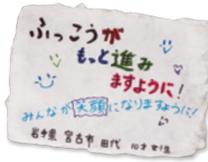


「伝える」



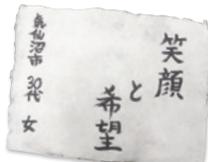
岩手県

岩手県宮古市の子どもたちにも東日本大震災当初の気持ちを聞きました。多くの方が、当時のことを「怖かった」「早く復興して欲しい」と言っていました。東日本大震災は、子どもたちにも大きな影響を与えています。子どもたちの想いを伝えます。



宮城県

宮城県の気仙沼市でメッセージ集めを行っている中で、多くの方と話すことができました。その中で、メッセージの協力を断る方がいました。8年経った今も、心の復興はされていないことに気づきました。言葉にできない想いを伝えます。



福島県

福島県新地町のある方は、「震災当時は、いつ地震が終わるのか不安な気持ちでいっぱいだった」と言っていました。しかし、全国からの応援と支援のおかげで、温かい気持ちで満たさたことでした。そして、感謝の気持ちを胸にこれからも頑張っていきたいと言っていました。東北の方々の今を伝えます。



東日本大震災から8年が経ちました。震災を知らない世代にも伝えていかなければならないと思います。東北の方々の想いを乗せた気球のデザインは一つ一つ想いが違う和紙キャンドルになっています。ぜひ、ごゆっくりご覧ください。

和紙 キャンドルガーデン -TOHOKU 2019-

2019.3.9 SAT-3.11 MON

17:00-21:00

東京ミッドタウン ミッドタウン・ガーデン、芝生広場 入場無料

インフォメーション Information

ショップ Shops 11:00-21:00 レストラン Restaurants 11:00-24:00

※一部店舗により異なります。詳しくはフロアガイドをご確認ください。
*Some shops keep different hours. Please check the floor guide for full details.

- 都営大江戸線「六本木駅」8番出口より直結
- 東京メトロ日比谷線「六本木駅」より地下通路にて直結
途中、段差があるため車椅子・ベビーカーをご利用のお客さまは日比谷線「六本木駅」で地上部に出てお越しください。
- 東京メトロ千代田線「乃木坂駅」3番出口より徒歩約3分

〒107-0052 東京都港区赤坂9-7-1
東京ミッドタウン・コールセンター
03-3475-3100 [受付時間 10:00-21:00]

東京ミッドタウン / TOKYO MIDTOWN
<http://www.tokyo-midtown.com/>



和紙キャンドルガーデン -TOHOKU 2019-

2019.3.9 SAT-3.11 MON 17:00-21:00

東京ミッドタウン ミッドタウン・ガーデン、芝生広場
TOKYO MIDTOWN Midtown Garden, Grass Square

入場無料
Admission Free

雨天・荒天中止
Cancelled in the event of rain or bad weather

東日本大震災の被災地を巡り、東北の方々のメッセージを届けるプロジェクト『和紙キャンドルガーデン』。多摩大学日本大好きプロジェクトの学生が心を込めた手漉きの和紙をキャンドルに仕立てました。2019年は「伝える」をテーマに東北3県42市町村に足を運び、震災から8年経った東北の方々の想いをお届けします。

“Washi” candle garden” is the project to send the messages from Tohoku region which was suffered from the Great East Japan Earthquake. “NIPPON DAISUKI PROJECT” from students of Tama University made washi candles by handmade washi. “Inherit” is the theme of this year. We visited 3 prefectures including 42 cities/towns and brought back their messages which were their “inherit” after 8 years from the disaster.
*Washi: Japanese traditional paper

- [主催] 東京ミッドタウン
- [企画・運営] 多摩大学 村山貞幸ゼミ「日本大好きプロジェクト」
- [協力] シスコシステムズ合同会社、株式会社毎日放送、カメヤマキャンドルハウス、多摩大学 目黒中学校・高等学校 高大接続プログラム
- [Organizer] TOKYO MIDTOWN
- [Plan and Management] TAMA UNIVERSITY Sadayuki Murayama Seminar Group “Nippon Daisuki Project”
- [Cooperation] Cisco Systems G.K. / MAINICHI BROADCASTING SYSTEM, INC. / kameyama candle house TAMA UNIVERSITY MEGURO JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL High school/University connection Program

無地和紙ロード

ミッドタウン・ガーデンには、無地の和紙キャンドルを配置します。シンプルな空間を演出することにより、風の音や季節の空気感とともに和紙の美しさを感じていただけます。和紙特有の一枚一枚異なる光の輝きが芝生広場へとつづきます。



みんなのメッセージで完成させよう

東北の方々と東北の“水”、“空気”で和紙を約1,500枚漉きました。東北で漉いた和紙に、ご来場者の皆さまから東北へのメッセージを書いて、和紙キャンドルにしてみませんか？ミッドタウン・ガーデンの無地和紙と入れ替え、ご来場者自身で火を灯して完成。皆さまの想いを伝えていただきます。



「デジタル短冊-TOHOKU2019-」

「東北への応援メッセージ」をシスコシステムズのデジタルホワイトボードに書き込むことで、手書きのメッセージが芝生広場にプロジェクターで投影されます。短冊のまわりを彩る提灯は、京都の職人さんによっていただきました。「一人ひとりの心×テクノロジー×職人技」で東北に未来への想いを「つなぎ」ます。

[協力] シスコシステムズ合同会社
株式会社毎日放送



芝生広場



今年の芝生広場のデザインコンセプトは「東北から東京へ降り立った気球」。東北生活文化大学の版画ゼミの学生と多摩大学日本大好きプロジェクトの学生が考えたデザインです。東北3県(岩手県・宮城県・福島県)の42市町村で和紙に書いていただいた、約2,500個のメッセージを和紙キャンドルとして灯します。



物販コーナー

昨年の和紙キャンドルガーデンで好評だったトートバックを今年も販売します。デザインは東北生活文化大学の版画ゼミ。みまもり隊[®]は、絵本の販売を行います。東北の方々と作り上げた絵本を手にとってご覧ください。
※みまもり隊とは、宮城県東松島市で主にボランティア活動を行っている学生団体です。



東北の学生たちからメッセージ

東北生活文化大学の版画ゼミは、1年生から4年生の10名で孔版、板紙凸版などの技法を用いた版画作品、全て手作りの製本や素材を変えたトートバッグ制作など、ものづくりにこだわっています。また地域活動も積極的に行っています。

東北生活文化大学 版画ゼミ一同



至 国立新美術館
To The National Art Center, Tokyo

東北の方は、震災当時
多くのボランティアの方々が
互に助け合っ作業を
手伝ってくれたと仰って
いました。東北を元気にする
為にも是非東北に足を
運んでみてくだ
さい。2年堀江



宮城県南三陸町
南三陸さんさん商店街



東洋大学Boothと東北を訪れた際、日本一周して
東北の想いを語っている方に出逢いました。

震災から8年が経ちました。
東北の建物は、復興が
始まっています。しかし、心の
復興は人それぞれです。
東北の皆様へのメッセージを
ご覧ください。



3年 蔵田

「震災地だから」として、東北に
行かない理由を作らないほしい。
東北は、以前より、観光を
楽しむところが多く提供して
います。是非、この機会を通じて、東北に
少しだけでも多くの方が足を
運んでほしいです。



4年 上地

東日本大震災から多くの
ことを学びました。そして
この経験はこれから
必ず役立つはずです。
だからこそ、東北の方々の
想いに触れてみてほしいです。



4年 祖熊

岩手県大船渡市
蔵ハウス大船渡



介護施設で紙漉きを行いました。「懐かしい」と仰って
いる方が多かったです。

宮城県石巻市
ホテルルートイン館内



石巻市のホテルに掲示されていました。最初見たとき
何も言葉にできませんでした。

未だに仮設住宅での
生活を余儀なくされて
いる方がいます。
東北の皆様の中に、
寄り添うためにも東北の
方々の想いを伝え
ていきます!!
2年 盛田



東北への想い

日本大好きプロジェクトの
メンバーが綴る



「8年経ったから笑顔で
話せることができる。当時は
思い出すことが怖かった」と
優しい顔で話してくれたい。
震災と向き合い
乗り越えてきた方々の
力強さを改めて
4年 石川



「震災を忘れない」
それだけでも東北の方々の
心は救われると思います。
「東北の為に何かしたい」
私達のイベントを通じて、
感じていただけたら
幸いです。
4年 加藤



宮城県石巻市
がんばろう!石巻看板



震災当初に作られた看板。飛行機が通り、綺麗な景色
でした。

東北に足を運ぶたび
感じた想いや景色。しかし、
繰り返して足を運んでも
わからないこともあります。
震災当時から現在まで
各々の想いや場所が
あり、時々あります
3年 内田



東北の方は、心温かい
人が多く大好きに
なりました。
東北の方とコミュニケーション
をとり、東北の良さを
知っていただきたいです。
3年 臼井



私の知らない現状が
東北にありました。
知ることが自分
が情けなくなりました。
3年 上野



岩手県山田町
船越保育園



保育園に訪れ、多くの子どもたちと紙漉きをしました。
和紙の材料である「楮(こうぞ)」の滑りで最初、戸惑
っていました。

福島県浪江町に
入水ようになり1年が経ちました。
8年経っても未だに立ち入ること
できない地域があります。
そのことを忘れないでくだ
さい。
2年 三谷



私は岩手県出身で、3歳を
実際に経験しました。
あの時のことは絶対に
忘れません。震災を風化
させないためにも、東北の方々の
メッセージを読んで
ください。
2年 岩佐



震災当時、私は小学生で
被害の甚大さが分かり
ませんでした。東北に足を
運ぶことで、現状を理解
しました。東北の方々の想いを
多くの人に伝えていきたいです。
2年 中村



宮城県石巻市
復興まちづくり情報交流館



館長のリチャードさんに当時のお話を伺いました。また、
「未来の石巻市は明るい!」と仰っていました。

今年も 東北の学生たち、 東京の学生たちに ご協力いただきました

東北の大学

岩手大学 / 東北生活文化大学 / 東北福祉大学 / 東北大学 / 仙台大学 / 福島大学 / 尚綱学院大学 / みまもり隊

東北の高校

岩手県立陸前高田高等学校 / 宮城県立気仙沼高等学校 / 宮城県立志津川高等学校 / 宮城県立登米高等学校

東京の大学

桜美林大学 / 専修大学 / 上智大学 / 東洋大学 / 東海大学 / 帝京大学 / 拓殖大学 / 東京調理製菓専門学校 / 東京法律専門学校 / 東京都市大学 / 立正大学 / 明治大学

東京の高校

多摩大学 目黒中学校・高等学校 高大接続プログラム

※50音順 ※2019年1月8日現在 ※順次拡大

東北の学生たちからのメッセージ

みまもり隊 佐藤さん

宮城県東松島市では、仮設住宅が解体され、復興公営住宅が建ち並んでいます。一見、復興は進んでいるかのように思えますが、地域の方々には仮設住宅でできた付き合いが全てリセットされ、知らない人が多く住む新しい住宅に住まなければならないことから孤独を感じる方も多くいらっしゃいます。

岩手大学 佐々木さん

東日本大震災から8年が経過し、東北の沿岸地域は復興の工事が進み目に見える形に変化を遂げています。しかし、まだまだ復興の途中であり、それぞれの地域で多くの課題を抱えています。遠く離れていても、東北沿岸地域の人々の心に少しでも寄り添い、声に耳を傾けていただければ幸いです。

尚綱学院大学 TASKI 伊藤さん

TASKIが活動する宮城県名取市関上は、復興公営住宅が完成し住民さんの新たな生活が始まっている一方、未だに仮設住宅で生活している住民さんもいます。そこで私たちは震災後から今まで寄り添い支援を続けてきました。3.11の復興はまだ途中ですが、少しずつ前に進みはじめています。

福島大学 菅野さん

私たちは福島県の大学生だからこその支援の形として福島県の方々に寄り添いさまざまな活動を行っています。復興はまだまだこれから。今できることを一生懸命に。このような機会に感謝し、震災後多くの活動を通して感じた私たちの想いを精一杯伝えたいと思います。

東京の学生たちからのメッセージ

東洋大学 Bbooth 石垣さん

実際に被災地を訪れたときに、今でも津波の影響が残っている小学校を見たときの衝撃は忘れられません。震災を忘れない風化させない活動はこれからも続けていきたいです。それに加え、震災当時の状況だけでなく、東北の魅力をもっともっと伝えたいです。

多摩大学付属目黒中学校・高等学校 五島さん

私は2018年の夏に東北へ行き、復興があまり進んでいない状況を知りました。現在の被災地の現状を知りました。私たち一人一人が出来ることは、何かを常に考え、東北の方々の想いに寄り添い風化させず、後世に伝えていくべきだと改めて感じました。

拓殖大学 Mittapharb 遠藤さん

Mittapharbは、ラオスで伝統的な織物を購入し、東北の工房とともに商品を製作しています。東日本大震災が起きてから現在まで震災支援にも力を入れております。また、東北の方々とも交流を行っております。和紙キャンドルガーデンを通して一人でも多くの人々に伝えて参ります。

日本大好きプロジェクトからのメッセージ

多摩大学村山貞幸ゼミ日本大好きプロジェクトでは、日本の伝統文化を伝承する活動を行っております。その一環として「和紙キャンドルガーデン TOHOKU2019-」を企画・運営しております。本イベントでは私たちが一枚一枚心を込めて漉いた和紙に、東北の方々の想いをかいていただき、キャンドルに仕立てました。私たちは、東日本大震災が起きてから東北に何度も訪問し、現地の方々との交流を重ねて参りました。東北には未だに復興できていない場所がありますが、元気に笑顔で過ごされている方も多くいらっしゃいます。今年度は、東北3県42市町村(岩手県・宮城県・福島県)に足を運び、メッセージを綴っていただきました。



多摩大学 村山貞幸ゼミ
日本大好きプロジェクト

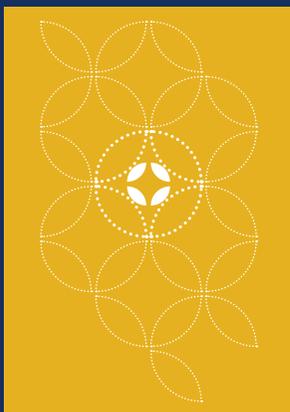
多摩大学 村山ゼミ「日本大好きプロジェクト」では、平成20年10月より日本の伝統文化を伝承していく活動を始めました。日本の伝統文化に数多く触れることで、多くの方に日本を深く理解し、心から「大好き」になっていただくことを目指します。

Twitter Instagram Website

過去7回の 芝生広場デザイン

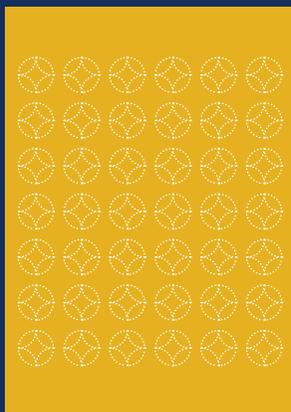
芝生広場一面に広がる和紙キャンドルの配置デザインは、2016年まで日本伝統文様の「七宝文様®」を使用。輪が繋がって無数に広がることから、東北の方々との「つながり」を表現してきました。

※七宝文様：伝統文化文様の一つで、輪が繋がるように広がっていく様子から、平和やご縁を願うという想いが込められています。



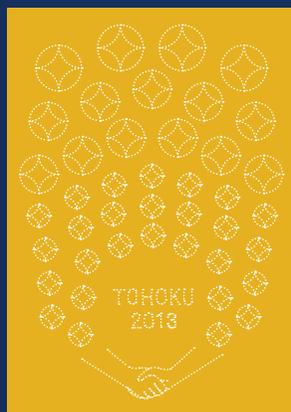
2011年
「力」

被災地、全都道府県、世界67か国からの力強いメッセージを、大きな七宝つなぎで表現しました。



2012年
「絆」

被災地37市町村を巡る中で、皆さまが強い絆で結ばれていることを印象づけられ、「つながり」を連想させる七宝文様で表現しました。



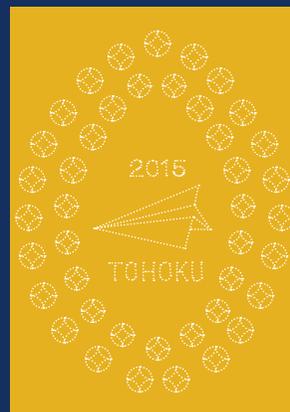
2013年
「繋がる」

被災地37市町村の方々と交流。被災地の方々とのつながりをきっかけに、東北の学生と共にイベントを創り上げました。



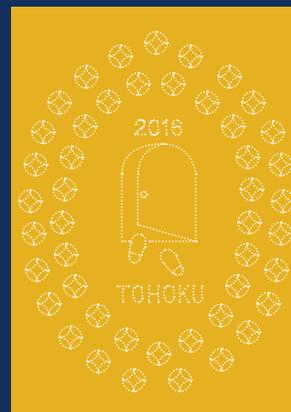
2014年
「伝える」

東日本大震災から3年半が経過した東北42市町村の方々の想いを伝書鳩にのせて東京から全国の方々に伝えました。



2015年
「伝え続ける」

被災地38市町村に足を運びました。東北の方々の声がたくさんの方に届いてほしいという想いを紙飛行機で表現しました。



2016年
「伝え続け、アクションにつなげる」

「扉を開き、一歩踏み出す」を表現。避難指示解除になった川内村、葛尾村に加え、40市町村の方々にメッセージをいただきました。



2018年
「伝えつなぐ」

東北3県125市町村を巡り、想いを伝えつないでほしいという意味を込めて「東北で実った木」で表現しました。